

加藤ゆうき 勇来

おんがえし

ささえあつて孤立させない



日本共産党

私の意気込み

子どもに「私費」でなく十分な「市費」を

例えば給食費や中高生の通学定期を無償化すれば、子育て世代の負担は軽くなります。子どもが公的教育だけでも十分に学べるように、多様な教職員の配置等に予算をつけることを考えるべきです。

予算は人へ——人こそ豊かさの源

あくなき利潤の追求が激しい格差を広げ、国民に社会の富が回らない。今こそ内需を活発にして実体経済を立て直すとき。「ゆりかごから墓場まで」の市政こそ、福祉充実、中小企業支援に思い切って切り換えるべきです。

草の根で平和・人権の底力を

豊かさや幸せはすべて平和が土台、戦争は愚かの極みです。破壊された街で逃げまどう市民…こんな体験は二度と不要です。自由と平和をつらぬき 100 年、日本共産党は常に戦争に立ち向かう防波堤です。

みなさんの御用聞き

市民が声をあげれば社会は変わる——そうはいっても一人では…、行動するのはちょっと…という人たちの声を聴き、現場に飛んで行くとともに解決を探り政治に届ける、私のめざす議員の姿です。



前県会議員
わしの恵子

自由でのびのび、発想が新鮮なゆうきさんに感動する毎日。私も全力で県会議席を回復し、ゆうきさんといっしょに再び県市コンビで、みなさんのお役に立つ決意です。

西区民報 2022年12月号外
西区押切 ☎ 052-532-7965
日本共産党と加藤ゆうきの
活動を紹介します。

加藤ゆうき 勇来 市政に挑戦します



学歴も地盤もありません。しかし、しがらみもありません。養護施設で育ち、人生を前向きに生きてきたとは言えませんが、周囲の人たちの熱心な助力で今があります。不運はあったかもしれないですが、不幸だったとは思いません。子ども時代から本当に支えられ、救われてきた人生。この恩を次世代の子どもたちへ返し、私がした回り道をしないで済む世の中になりたい。

誰もが下を向くことなく夢を追える社会にしたい。歳を重ねるごとにこの気持ちが強くなりました。

そんなときに出会った日本共産党、そして市議選への出馬要請。驚きとともに、これこそ自分にできる「恩返し」ではないかと思い、腹を決めました。

子ども対高齢者、正社員対派遣社員、こんな分断社会ではなく、支えあえる社会へ変える！すべて一から勉強、どっぞよろしくお願いします。

■ 1978 年生れ ■ 城西小、浄心中、名古屋西高（1997 年卒） ■ 郵便局勤務はじめ大小の企業で派遣労働。6 年前から市の小中学校支援員勤務、のちに部活指導員も。
■ 略歴：幼少時、両親の離婚で児童養護施設に入所。後に親権が母親に認められて同居。この経験で、人々の格差や人を見る目は養われたと思っています。 ■ 西区枇杷島三丁目在住 ■ 家族：母、妹。同居家族なし。
Email : jcpkato.chan7826@gmail.com

加藤ゆうき 波乱の前半生、すべてが宝

別れ別れで知った家族のきずな



4歳のときに両親が別居。父は仕事でやむなく私と妹を児童養護施設に預けました。

数年後、私たちの居所を偶然知った母が施設から私を連れ出しました。

すぐ連れ戻されましたが、私たちの「会いたい」思いは募り、中村区から西区の城西まで妹と歩いて母の家へ何度も行きました。

その後、母が親権を持ち、一緒に暮らすようになってからもきびしい生活が続きましたが、まわりの支えのおかげで、ここまで他人に後ろ指を指されることなく成長できました。

派遣の職場で眼前にした現実

私はどんな仕事でも、仕事自体にはやりがいをもって取り組んできました。しかし、先輩や同僚がまるで物のように使い捨てされる場面を見るたび、これが人のためにも、企業や国のためにも、良いはずがないと思い続けてきました。



学校支援員で得た喜びと生きがい



施設育ちのせいか、子どもが抱えているものを感じられる「特技」があります。それを受け入れて始まる子どもとの交流。今までにももらった子どもの手紙は全部持っています。じかに接した子だけでなく、すべての子に光ある社会を、それが学校現場から政治の場に挑む決意です。



YouTube

◀対談ビデオ
ゆうきの半生



加藤ゆうき君は必ず期待にこたえます

何かを変えてくれる人

まんだらアーティスト 水野治美

「これ何ですか?」…。こども食堂の「マングラアート体験」に男性ひとり。「描くときの気分もでてきますよ」と声を掛けると、「やります…僕の闇です」と金色のペンで描いてる。闇の人は金色を選ばないと思うけど…。

互いに福祉関係の仕事で話が弾み、調子に乗って身の上話まで。障がいを持つ人や子どもをこんなに熱く理解する、「何かを変えてくれる人だ!」と直感しました。2回目の体験ではピュアな作品。優しさの塊の人です。

努力と感謝を惜しまない

医師 河野彩実



初対面は学校の支援員をされていた時。様々な職業を経験し話題も豊富で話していると元気になれ、子ども時代こんな大人に出会いたかったな、と思う人です。

第一印象は「努力と感謝を惜しまない方」自分が色んな人に育ててもらった恩を、社会に還元しようという気持ちで暮らしていて、その延長が今回の出馬だと思います。古い慣習にとらわれず、新しい改革、新しい文化を名古屋にもたらしくださるのを期待しています。

優しさ、頼もしさ

児童養護施設元保育士
松原しづ子



加藤君が過ごした施設の保育士でした。数十年ぶりに会い、退所後のことや立候補を決めるまでの話を聞き、辛く厳しい中、よくここまでと感銘を受けました。優しさも頼もしさも持つ加藤君、当選後はすばらしい成果を上げてほしいと思います。

野良猫?

栄養士 栗田真実



第一印象は…野良猫。突然の雨に差し出したピンクの傘を、躊躇なく受け取ったことに親近感。“人の良さ”を深く味わった。

経験豊富で沢山の知識、飽きない男。困った時は遠くても忙しくて来て、どんな事にも回答してくれる。猫のように高い塀の上や軒下にも冒険しているに違いない。その才能が今こそ発揮できる時だ。

共産党と強く響きあう

党枇杷島・栄支部長
西田一廣



ある種の衝撃を覚える初対面でした。自分が経験した派遣労働のことなどをズバリ、ズバリと分析する言葉は、共産党と強く響き合うものでした。今、人々の声に心を寄せ、ともに力をあわせようと、フットワーク軽く行動する彼にぜひ、大きな仕事のチャンス!